

# TICAD7 報告書

第7回アフリカ開発会議を終えて

一般社団法人アフリカ開発協会

〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町4番1号

Tel.03-3511-8911 Fax.03-3511-8922 URL. [www.afreco.jp](http://www.afreco.jp)

# SDGs を巡る我が国の状況について

## ■日時・会場

2019年8月22日（木）13:30-15:00

参議院議員会館 B107

## ■講師

菅正広

財務省大臣官房参事官、アフリカ開発銀行日本政府代表理事、世界銀行日本代表理事などを経て、現在アフリカ開発協会特別参与、明治学院大学大学院教授。また、グラミン銀行の日本版「グラミン日本」理事長。貧困のない、誰もが生き生きと生きられる社会を目指して、シングルマザーやワーキングプアの人たちに、起業や就労のための資金を融資する。主な著書に『構想 グラミン日本』（明石書店 2014）、『マイクロファイナンス』（中公新書 2009年）、『マイクロファイナンスのすすめ』（東洋経済新報社 2008年）など。



## ■内容

持続可能な開発目標 SDGs は大きなビジネスチャンスをもたらす市場となり、企業にとって SDGs ビジネスに取り組むことのメリットは大きくなっているが、企業内では経営層、SDGs 担当者、一般社員のニーズはそれぞれ異なっており、また、SDGs に対するホンネとタテマ工が交錯している。SDGs を巡る日本の現状を踏まえると、何よりも自分のこととして SDGs に取り組めるかどうかポイントとなる。SDGs の中で、自社にとって何が重要か、自社操業の中で SDGs にどう取り組んでいるか、ステークホルダーにとって重要な SDGs は



何か、SDGs の目標ではなくターゲットレベルで検討しているか、自社の業務報告の中に SDGs に関して含めることはあるか——このように見つめ直すと、何をすべきかが見えてくるはずである。

\* PPT 資料はアフリカ開発協会 URL の Report 内に掲載。

# アフリカと日本のユース提言

Africa-Japan Youth Alliance for SDGs Ideas for Global Change

## ■はじめに

TICAD6の際に、アフリカと日本の学生の交流会を開催した。ケニアのジョモ・ケニヤッタ農工大学で、10人の日本の学生と16人のアフリカの学生がSDGsをテーマに日本とアフリカの協働の可能性や自身のアイデアによるSDGs解決策の提案を行った。これに引き続き、TICAD7でも学生の交流を促そうと企画されたのが、当該企画である。



## ■企画目的

アフリカと日本の若者が相互理解を高めるため、そして未来に向かって一緒に課題解決に取り組めるように、若者の声を聞く場を提出する。また、日本の若者のアフリカへの興味を促進する。

## ■企画内容

アフリカと日本、SDGs達成のためにはそれぞれ異なる課題を抱えている。日本の技術や知見を用いてアフリカの課題に取り組む、あるいはアフリカでおきているイノベーションや工夫を用いて日本の課題に取り組む、そのような自由でユニークな若者からの提言やビジネスアイデアを募集した。若い世代がお互いから学ぶことでイノベーションが生まれ、新しいパートナーシップが生まれると考え、若者らしい視点と実効性のあるアイデアを求めた。

## ■企画概要

主催： 一般財団法人あしなが育英会 一般社団法人アフリカ開発協会  
共催： 独立行政法人国際協力機構  
後援： 一般財団法人日本国際協力センター 国連広報センター  
早稲田大学国際戦略研究所 創価大学 MOTTAINAI キャンペーン事務局  
協力： 毎日新聞社  
協賛： IKEUCHI ORGANIC エバニュー カタール航空 スーパーホテル  
道祖神 ミヤザワ 山田繊維

## ■ 応募資格

日本またはアフリカ出身者で、日本国内に在学中の高校生、大学生、大学院生、または30歳以下の社会人。

## ■ 審査基準

- ・「新規性」「SDGsへのアプローチ」「ユニークさ」などの視点から総合的に審査し、アイデアの実現性等も含めて評価。
- ・言語や発表のアピール力、アイデアの企画力、内容を考慮して評価。

## ■ 広報

広報は毎日新聞を中心に行われ以下の通り紙面掲載があった。またデジタル毎日にも頻繁に掲載され、URL、フェースブックでも告知が行われた。（添付記事コピー参照）

2019年5月18日（土）	都内版	募集
2019年6月2日（日）	大阪版	募集
2019年6月8日（土）	京都版	募集
2019年8月12日（月・祝）	都内版	本選会告知
2019年8月28日（水）	都内版	本選会結果
	横浜版	本選会結果
2019年8月31日（土）	秋田版	本選会結果

広告については、同じく毎日新聞に7月14日、8月1日、10日、17日、22日に掲載された。

## ■ 実施スケジュール・内容

- ・2019年4月19日（金） 応募開始
- ・2019年6月17日（月） 応募締め切り、第一次書類選考
- ・2019年7月5日（金） Emailにて選考結果通知
- ・2019年7月13日（土） 第二次オンライン・プレゼンテーション選考
- ・2019年7月22日（月） Emailにて選考結果通知
- ・2019年8月26日（月） 本選

### 第一次書類選考

日本人20人、アフリカ出身者30人が応募。一般財団法人あしなが育英会 一般社団法人アフリカ開発協会、毎日新聞社の3団体で審査。日本人12人、アフリカ出身者12人を第二次オンライン・プレゼンテーションに進出させた。

## 第二次オンライン・プレゼンテーション選考

毎日新聞社内で、準備時間も入れて約7時間、2部屋に分かれ審査。一般財団法人あしなが育英会（鳥居氏、マゲンダ氏） 一般社団法人アフリカ開発協会（名井氏、渡邊氏）、毎日新聞社（七井氏、藤原氏）の3団体で、日本人3人、アフリカ出身者3人に絞る。

## 本選

早稲田大学3号館301教室で開催。集客数は200人。パネル・ディスカッションとプレゼンテーションについては、同時通訳をつけた。

### <主催者挨拶>

一般財団法人あしなが育英会 藤村修副会長  
一般社団法人アフリカ開発協会 矢野哲朗会長

### <パネル・ディスカッション>

日本とアフリカを繋ぐビジネスを展開しているパネリストによる「日本×アフリカ：アイデアをかたちに」というディスカッション。パネリストはDMMアフリカのパトリック・ベフマ氏、リッチー・エブリデイの仲本千津氏、ビットペサ社CEOのエリザベス・ロッシエロ氏。司会は早稲田大学 大門毅教授。



### <プレゼンテーション>

各ファイナリストが10分のプレゼンテーション、その後5分間の質疑応答を行った。

1. アマドゥ・アリ・ナビ（ギニア出身 文部科学省の奨学金で北海道大学に留学中）  
「アフリカの食糧問題解決のための高タンパクフードとしての浮草の活用」
2. イブレディ・アベメブオト（カメルーン出身 ABEイニシアティブで神戸情報大学院大学に留学中）  
「ICTを活用したマラリア予防」
3. 休場 優希（横浜市立大学）  
「日本で不要になったベビー服にリメイクした布ナプキン」
4. 片岡 剛輝（立命館アジア太平洋大学）  
「アフリカのエンジニアと日本企業を結び付けるアイデア」
5. 村上 采（慶応義塾大学）  
「世界一愛が詰まったお洋服」



6. エマニュエル・マセルカ（ウガンダ出身 あしなが基金で国際教養大学に留学中）  
「「ゴミ・エコノミー」モデルの導入による廃棄物処理の新たな方法」



<特別メッセージ>

ガンビア大学副学長モモドゥ・ジェン教授による若者へのメッセージ。ガンビア大学を創ってきた経緯と経験から、よりよい未来を創るために大学が存在すること、そしてそこで学ぶ学生こそが社会のために革新と変革をおこすことができるのだと訴えかけ、日本とアフリカの絆を益々強くするよう努力してほしいと話した。

<審査>

審査員長古市信道氏と3人の審査員（ディック・オランゴ氏、エリザベス・ロッシエロ氏、坂之上洋子氏）による審査の結果、日本人は女子の就学率向上のためのアイデアを発表した休場優希さん、アフリカ出身者はゴミ分別システムを提案したエマニュエル・マセルカ氏が最優秀賞に選ばれた。また特別に用意された日本気象協会賞もマセルカ氏の手に入った。

副賞として、最優秀賞の2人にはカタール航空の往復航空チケットなどが送られた。

■おわりに

夏休み中にもかかわらず沢山の人が本選を見に来てくださったことが、このような企画が求められている証とも思えるが、応募総数がもう少し多くてもいいのではないかと考えている。この点では課題が残り、次回同じような機会が得られれば告知をもっと早くから行うべきであるし、また多くの大学から学生へ呼びかけてもらえるよう準備する必要がある。オンライン・プレゼンテーションについては、大きなトラブルはなかったものの、技術的に細かいところで手がかかり、プレゼン資料と画像の切り替えでトラブルがみられたケースもあった。今後の課題である。

# 第7回アフリカで活躍する医師・ 医学研究者の連絡会議



## ■日時・会場

2019年8月27日(火) 15:00-17:30

パシフィコ横浜 Annex F201

## ■プログラム

### ご挨拶

アフリカ開発協会 会長 矢野哲朗

- ・本日のご出席に感謝申し上げます。
- ・3年前の TICAD6 の時に、ケニアの武居先生、スーダンの川原先生、ザンビアの山元先生などアフリカで活躍する日本人のお医者様を中心に、横軸にも情報が流れるようにプラットフォームを創ろうと立ち上げたのが当該会議。今回で7回目になる。UHC の考えのもと、アフリカの国々で案件を立ち上げて1つ1つ実現していければと考えている。
- ・今日の会議では、その流れで形になってきている、ケニアのジョモ・ケニア農工大学との連携、タンザニアのドドマ大学との連携、そしてザンビアでの川原先生の新しい活動について報告をする。他にも報告すべき案件はあり、近い将来形になるだろうと思えるものが5, 6件ある。皆さんの意気込みを感じ取ってほしい。
- ・今日は JICA の越川副理事長にもお越しいただいているが、JICA のご支援に感謝申し上げます。
- ・政府が打ち出した「アフリカ健康構想」に則って、特にアフリカでの人材育成を目指して今後も当該会議を続けていきたい。



## ご挨拶

JICA 副理事長 越川和彦氏

- ・ JICA を代表してご挨拶できることに感謝。



・ TICAD6 の時に、JICA が UHC を世界銀行やグローバルファンド、アフリカ開発銀行と共に、アフリカでの UHC を実現していこうと提唱してから、沢山の進展があったことを嬉しく思う。

・ TICAD7 では「アフリカ健康構想」が打ち上げられたが、これは早急な UHC 達成のための後押しとなる。JICA も一役を担っていきたい。

・ 2010 年以來 JICA は、 10 のパートナーシッププロジェクトを、また 30 近い基礎調査をアフリカの健康分野で行ってきている。今年は、ある程度医療行為での技術支援ができるようにルールの改正にも取り組んでいる。

・ アフリカ開発協会と矢野会長のアフリカへの貢献に感謝申し上げるとともに、本連絡会議が今後のアフリカと日本の関係をより一層深いものにするように期待している。

## ケニア ジョモ・ケニヤッタ農工大学

Dr. Reuben Thuo

・ 非感染症疾患施設を設立したいと考えて、TICAD6 以来アフリカ開発協会と会合を重ねてきた。大統領の国政における 4 つの柱の 1 つも非感染症疾患に関するものだが、ケニアは医療物理学の点でまだまだ遅れている。

・ 日本とは 1981 年以來の関係で、様々なプロジェクトで支援を受けている。

・ 特に以下の分野から手掛けたい：腫瘍、頭部や首、心血管・代謝の疾患、トラウマに関するリサーチ、メディカル・エンジニア。またヘルス・インフォメーション・システムを立ち上げていきたい。

・ 当該施設を立ち上げることは、地域の人々の健康に貢献するばかりでなく、日本の医療や医療機器を紹介し、将来のビジネスにもつなげることができる。



## ザンビアでの活動開始

NPO ロシナンテス 川原尚行氏

・ これまでスーダンで活動が続けてきた。それを受けて、ザンビアでも多面的に衛生・医療が根付く環境と医療そのものを展開していきたい。



・ザンビアでは、出産するにあたり施設分娩が義務化されているので自宅出産はできない。そのため診療所が近くにない遠隔地の人々は、出産が近づくとマザーシェルターに滞在する必要がある。が、マザーシェルターそのものが不足している。

・日本のドームハウス（耐熱性が強く、風力にも強い、3時間で完成する）でマザーシェル



ターを作ることを構想中。そこに空気中から水を作る給水機を設置し、それに必要な電力は太陽光で、また同時に熊本大学が開発しているデジタル母子手帳の導入を考えている。

・またマザーシェルターが整ったら、スーダンで行ったように、学校を設立し、診療所・病院を建てるという風に規模を大きくしていきたい。

### タンザニア ドドマ大学

Prof. Ipyana Mwampagatu

・首都移転のため今後ますますドドマの人口が増え、様々なニーズが叫ばれるようになる。

・ドドマ大学には大学、大学院レベルで医学、看護学、薬学、科学・薬学研究所があり、今後日本の協力でバイオ・メディカル・エンジニアの学部を立ち上げていく。

・ドドマには大学附属病院の他、ベンヤミン・ムカパ病院（元々ドドマ大学が建てた病院で、2018年に教育省から保健省に管轄が移行した。病院は大学敷地内に建っている。）や総合病院がある。ムカパ病院では徳洲会と女子医大病院の支援で腎移植を何例も成功させてきた。

・ドドマという街、州の今後の発展を考えると、大学附属病院をもっと充実させていく必要がある。附属病院画像診断所への医療機器の導入、大学での人材育成とカリキュラムの開発、医療産業の発展、そして巡回診療用のバス。

・大学にはすでに日本製の機器、医療機器もありなじみがあることに加え、前述の腎移植の際にはムカパ病院の医師だけでなく大学の医師も参加していて、日本医療への信頼がある。だからこそ、日本との関係を益々強化すべきと考えているし、医療面での発展のために日本に力を貸してほしい。



## 2つのMOU締結

アフリカ開発協会では TICAD6 以来力を入れてきた医療分野で、TICAD7 を機にケニアの ジョモ・ケニヤッタ農工大学、タンザニアのドドマ大学 2 つの MOU を結んだ。両校から来日した先生方との会合なども含めてここに報告する。

### ■ケニア ジョモ・ケニヤッタ農工大学

帝京大学 沖永佳史理事長との面談 (8月28日)

・JKUAT は 35 年の歴史しかないまだ若い大学だが、日本の援助も手伝って大きくなってきている。現在、4 万人の学生がおり、その内 4 千人が医学系の学生。今年初めて医学部から卒業生が生まれた。

・帝京大学には医学部、看護学部に加え臨床工学技士を育てる学部もある。ケニアではメディカル・エンジニアはディプロマ・コースであるが、JKUAT ではそれ以上の高いレベルを求めている。

・帝京大学は、世界のいろいろな大学と MOU を結んでいるが、まだアフリカには姉妹校はない。JKUAT との関係構築を模索した。担当は中田教授だ。連絡がつくように手配しておく。

・時間があるのであれば、病院を案内させる。→ヘリポート、入院用の特別室、通常の病棟、外来診察室、画像診断所、分析室、ER など見学。ベッドの数は 1000 床越え、外来は 1 日 4000 人くらい。

・矢野会長について、まずは JKUAT を訪ねたい。



帝京大学 中田善規教授との面談 (8月28日)



・サマーセミナーに JKUAT から数名参加するつもりはあったが予算が取れずかなわなかった。帝京大学側も問い合わせをいただいたことを記憶している。残念だったが、同じようなセミナーはこの冬もあるので参加を検討して欲しい。

・帝京大学側で力になれることはたくさんあると思う。MOU を交わして協力をしていくつもりはあるが、まずは JKUAT を見てからだ。その為には理事長を口説く必要

がある。これこそアフレコの仕事であろう。

## MOU 締結 (8月29日)

### ケニア側出席者

Prof. Haroun Ngeny Kipkemboi Mengech

Dr. Reuben Thuo Wangari

### 日本側出席者

アフリカ開発協会 会長 矢野哲朗

アフリカ開発協会 副会長 名井良三

アフリカ開発協会 事務局長 長谷川仰子



・矢野が2週間前にケニアに訪れたときの合意内容に基づき、JKUAT とアフレコの間で MOU を結んだ。まずは、非感染症疾患に特化したメディカル・インスティテュートを建設することを目的とする。会場は、キャンパスから少しナイロビ市内へ向かったところにある土地。

・非感染症疾患の治療など医療分野での開発は、現大統領が政策の4つの柱の1つにあげているものだが、医学物理学や医療工学など、ケニアではまだ欠けていることが多いので、日本からの支援が必要。

## ■タンザニア ドドマ大学

### 西村医科器械 X UDOM (8月27日)

西村医科器械株式会社 会長 西村光博氏

株式会社クニエ ディレクター 平林潤氏

・巡回診療バス受け入れる際のタンザニア輸入、車輛手続きなどドドマ大学が良い方法を調査する。

・巡回診療バスについてすでに MOU を結んでいるが、もう少し踏み込んだ MOU に変更する。内容としては以下4点。1) 病院に通えない人々に可能な限りリーチアウトする。2) 診察した人々のデータを共に集めて整理をする。3) 当該バスをコミュニティを形成し支えるためのツールと考える。4) 当該バスをドドマ大学の医師、学生の教育の場と考える。

・ドドマ大学附属病院については、引き続き画像診断所に日本の機器を納められるよう双方努力する。画像診断所は2020年2月に完成予定。建設業者は中国だが、支払いはタンザニア側。すでに半分は支払い済み。

・画像診断所の機器は、できれば新品がほしいが、リファビッシュしたもので十分使えるしCTスキャンなどは新品でも同じようにパーツの入れ替えが必要であることは理解した。国家予算で購入する場合はすべて新品である必要があるが、ドドマ大学内の「デベロップメント・バジェット」(授業料や大学の施設利用収入からつくる予算)を使うときは必ずしも新品である必要はない。

・ドドマ大学附属病院がドドマ・モデル・ティーチング・ホスピタルになるように、ドドマ大学が医療・医療教育中核的研究拠点になるように導いていく。



#### 東亜大学 X UDOM (8月27日)

東亜大学 教授 平松隆円氏

倉敷芸術大学 教授 梶村友隆氏

- ・すでに MOU を結んでいるため、2020 年 4 月以降バイオ・メディカル・エンジニアを将来教える側の受け入れが可能。後は資金を調達するだけ。ABE イニシアティブと文部科学省の国費留学生の枠組みで出来るだけ早く留学を実現する。
- ・ UDOM 側は既に 3 人の候補者に絞り込んでいる。
- ・ 梶村先生が現在所属する倉敷芸術科学大学でも留学生受け入れは可能。

#### 臨床工学国際推進財団 X UDOM (8月27日)

臨床工学国際推進財団 理事 梶村友隆氏

- ・財団メンバーと共に UDOM が作成したバイオ・メディカル・エンジニアのカリキュラムを精査したところ、大変良くできていた。傾向として、工学のレベルが高度だが臨床については授業が少ない。機器を直す技士を育てることだけに特化するか、いわゆる臨床工学技士を育てることを考えていくかがポイント。
- ・必ず臨床工学技士のような人々が必要になるので、UDOM では両方を育てる。最初の 2 年間は共通の授業を受けさせ、3 年目、4 年目で工学を中心にしていくか臨床を中心にいくか選ばせる。最終的にはどちらも学士を取れるようにする。最初はコ・メディカルのディプロマを持っているものを半分選んで、この学部で学ばせるようにする。そうすれば法的にも患者に触ることが可能になる。
- ・梶村先生の方で、臨床出掛けている部分のプログラムを加えて UDOM 側に送る。

#### 株式会社ジー・キューブ X UDOM (8月27日)

株式会社ジー・キューブ 代表取締役社長 西村賢治氏

臨床工学国際推進財団 理事 梶村友隆氏

- ・透析や注射に使用する医療用の水の生産を JV で開始することを視野に、今年度ドドマでの水の調査を行う。
- ・JV にする場合、UDOM 側では許可の申請、場所と建物の確保、電源の確保を先ず行う。日本側では機器などを取りそろえる。
- ・電力については、現状停電になるなどの問題は起きていないが、人口が増えつつある中で水力発電所の建設が進んでいる。22 か月後にこれが完成し、電力の心配はなくなる。

#### タンザニア首相との会食 (9月1日)

タンザニア側出席者

Hon. Kassim Majaliwa Majaliwa, Prime Minister

Mr. Raymond Gwelle, Private Secretary to the Prime Minister

Mr. John F. Kambona, Charge d, Affaires, *a.i.* – Embassy of Tanzania, Tokyo

Mr. John Rubuga, Commissioner for External Finance, Ministry of Finance and Planning

Mr. Emmanuel Joseph Rupia, Assistant to the Prime Minister, Prime Minister's Office

Prof. Gregory Mpanduji, Deputy Vice Chancellor, University of Dodoma

Prof. Ipyana Mwampagatwa, Principal of the College of Health Sciences, University of Dodoma

Dr. Omary Ubuguyu, Ministry of Health

Ms. Emi Tanaka, Secretary to the Ambassador, Embassy of Tanzania, Tokyo

日本側出席者

西村医科器械株式会社 会長 西村光博氏

株式会社クニエ 常務取締役 小原義昭氏

東亜大学 教授 平松隆円先生

徳洲会 Dr Milanga Mwanatambwe

アフリカ開発協会 会長 矢野哲朗

アフリカ開発協会 副会長 門間大吉

アフリカ開発協会 副会長 名井良三

アフリカ開発協会 事務局長 長谷川仰子

#### <タンザニア首相の発言から>

・ドドマ大学へ1年以上にわたり医療分野向上のためにお力添えいただいていると聞いている。感謝を申し上げる。アフレコに関わっていただいている内容は、まさにマグフリ大統領がタンザニアを2025年までに中所得国にしようとする流れに沿っていて大歓迎であるし、タンザニアの人々へ質の高い医療を提供するために欠かせないものだと考える。我が国政府でも必要なものは支援していきたいと考えている。

・安倍首相も、アフレコとドドマ大学の協力の話はご存知の様子だった。社会保障が重要という話をした。JICA北岡理事長もご同席だった。

・特に医療産業へのお力添えはありがたい。医療用消耗品を国内で生産することの重要性はよく理解しており、タンザニア国内で医療産業への投資

をすべきだということは我が政府のビジョンとも合致している。これは人々の健康に貢献するばかりでなく、雇用を増やしタンザニア経済を活性化することにもなる。

・巡回診療バスについては、もうすぐタンザニアに届くと聞いている。病院へ行けない人々が多い中でこのバスの重要性は言うまでもない。また若い医師たちも、このバスで巡回診療をすることで医師としての腕を上げることができる。この診療バスの成果は結果を待つまで



もないほど明らかだ。加えて、ドドマ大学の病院の設備を整えるために、ご協力くださると聞いている。イニシアティブに感謝申し上げたい。

- ・ バイオ・メディカル・エンジニアの学部開設に向けてのご協力も感謝する。人材育成がやはり最重要課題だと考えている。文部省同士の MOU が両国で結べればとも考えている。

- ・ 様々な協力関係にあるうえで、今日、アフレコとドドマ大学が将来の協力も約束しようと MOU を結ぶと聞いている。保健省の者 (Dr Omary Ubuguy) を証人として立ち合わせるので、今後とも宜しく願いしたい。

- ・ 医療面以外にも、橋や道路、トヨタの工場建設など、日本との接点は色々ある。日本人は勤勉で時間通りに仕事をし、安全対策もしているので、お仕事を任せるのには安心だ。

- ・ ダルエスサラム近くで住友が取り組んでいる発電所に関しては、第二、第三フェーズでまだ日本にもチャンスはあると理解している。地熱発電も取り組んでいきたい分野だ。

- ・ 観光客を日本からもっと呼び込みたい。ンゴロンゴロやセレンゲッティなどの国立公園や、キリマンジャロなど、魅力のあるサイトが多い。是非これにもお力添えがいただきたい。

- ・ 日本の首相がタンザニアに来たことはまだない。お越しいただければ、タンザニアの魅力をもっとわかっていただけたらと思う。

#### MOU 締結 (9月1日)

- ・ 首相との昼食会に引き続き、保健省 Dr Omary Ubuguy の立ち会いのもと、ドドマ大学副学長補佐 Prof. Gregory Mpanduji とアフリカ開発協会会長矢野哲朗が MOU にサインをした。



## 矢野会長要人との意見交換

TICAD7では、13人の要人と会談を行い各国のニーズを確認するとともに、会場やホテルですれ違う要人とも積極的に会話を交わした。継続中の案件の確認をしたり、今後の案件形成につながる話をしたり、充実したTICADとなった。



シエラレオネ大統領夫人



チュニジア外務大臣



セーシェル大統領



ギニア大統領



ガンビア副大統領



モザンビーク経済・財務大臣



スーダン次官



ジブチ商工会議所会頭



アンゴラ大統領



ジンバブエ大統領



エチオピア大統領





リベリア保健大臣

コンゴ民主共和国大統領



### バイ会談をした要人リスト

トーゴ共和国	フォール・エソジンナ・ニヤシンベ大統領
コンゴ民主共和国	フェリックス・アントワン・チセケディ・チロンボ大統領
シエラレオネ共和国	ジュリウス・マーダ・ビオ大統領夫人
エリトリア国	オスマン・サレー外務大臣
ガンビア共和国	アイサトゥ・トゥーレイ副大統領
ギニア共和国	アルファ・コンデ大統領
モザンビーク共和国	アドリアーノ・アフォンソ・マレイアーネ経済・財務大臣
スーダン共和国	イルハム・イブラヒム・モハメッド・アメッド外務省次官
リベリア共和国	ウリヘミナ・ジャラ保健大臣
ジンバブエ共和国	エマソン・ダンブゾ・ムナンガグワ大統領
アフリカ開発銀行	アキンウミ・アデシナ総裁
アンゴラ共和国	ジョアン・マヌエル・ゴンサルヴェス・ロウレンソ大統領
タンザニア連合共和国	マジハリワ・カシム・マジハリワ首相

## その他の活動

### ■ サイドイベントでのご挨拶

矢野会長は、以下3つのサイドイベントで冒頭挨拶をした。

「人と自然の競合問題に対処するための情報共有システム整備及びガバナンスの枠組み強化」

8月28日（水）13:00-14:30 パシフィコ横浜 Annex F202  
ルサカ協定タスクフォース 主催

「アフリカ宇宙フォーラム ― 宇宙技術を活用した万人のための宇宙」

8月28日（水）18:00-19:30 パシフィコ横浜 Annex F203  
内閣府、総務省、外務省、文部科学省、経済産業省、（国研）宇宙航空研究開発機構 主催

「アフリカの角における安全保障と開発の結合」

8月30日（金）10:30-12:00 パシフィコ横浜 Annex F206  
国連薬物・犯罪事務所 主催

### ■ TICAD 7 関連 アフリカ開発協会後援事業

「アフリカとSDGs – 価値創造で共にひらくアフリカの未来 –」

9月1日（日）10:00-17:00 パシフィコ横浜 3F  
創価大学「アフリカとSDGs」シンポジウム実行委員会 主催

### ■ アフリカ開発協会学生委員会

外務省 TICAD 事務局の依頼を受けて、TICAD7 でボランティアをする学生を、アフリカ開発協会学生委員会を中心に50人ほど集めた。今回のTICADでは、初めてボランティアが本会議場内で活動することになり、会議場内でもなじみのある顔がちらほら見受けられた。